

平成 30 年度 北九州市発達障害者支援モデル事業報告書

行動障害の予防における効果的な支援手法の開発

I. 事業要旨

このプログラムの目的は、行動障害がある発達障害児者を持つ家族に対して、家族を含む関係者会議や家庭へのコンサルテーションを行うことにより、家族が本人に対する関わり方を学び、本人が家庭の中で安定して生活することである。

平成 26 年度から 29 年度までは、福祉サービス事業所や教育関係等の支援者を対象とした研修会を開催した。平成 26～27 年度は実践報告やシンポジウムを行い、平成 28～29 年度は行動分析に関する基礎講義と事例検討の演習、参加者からの実践報告等のフォローアップ研修会を行った。4 年間継続した結果、温度差があるものの、研修会で学んだことを、現場の中で実践するようになった事業所がみられだした。その一方で、行動障害がある自閉症児者をもつ家族の中には、子どもへの対応方法が分からず、あるいは知っていても家族が実行することが難しいため、途方に暮れている事例がある。また、家庭で生活することが困難になり、施設入所あるいは精神科病院に入院する場合もある。そのため今年度は、知的障害があり行動障害のある自閉症児の家族を対象として、家庭へのコンサルテーションを行うこととした。

事業を実施するに当たって、ワーキンググループを立ち上げ、事業内容に対する意見をもらった。その結果、家庭支援は、①家族や相談支援事業所、学校、放課後デイサービス事業所等本人を取り巻く関係者で支援会議を行い、特性等の共通理解及び統一した支援を行う、②支援計画は、(1)「一日を過ごしやすくするための取り組み」という視点、(2)本人の気持ちに寄り添う支援、(3) (1)、(2)のためには、環境の構造化等による受容性コミュニケーションと意思決定等表現性コミュニケーションの取り組み、行動観察による機能分析の取り組みが必要である、という意見であった。

加えて、家庭支援を行うには、家庭で実施可能な取り組みや親の気持ち等を理解しておくことが必要であるという意見があがったため、自閉症児者をもつ母親 6 名へインタビューを行った。分析の結果、知的障害があり行動問題がある自閉症児者への母親の関わりは、《子どもに必要な関わり方が分かっている》プロセスであることが分かった。また、得られた内容を、1. 家族への支援、2. 親が子どもに必要な関わり、3. 地域支援体制整備に分類した。

ワーキンググループや母親へのインタビュー調査結果、及び企画・推進委員会の意見を基に、事業を実施していくこととした。

今年度は、睡眠の乱れ・自傷・他害行動・かんしゃく等がある、特別支援学校小学部 1 年生 7 歳の男児を持つ家庭を対象とすることとした。北九州市が発行し

ているサポートファイル「りあん」をアセスメントツールとして、つばさが家庭、学校、放課後デイサービス事業所等を訪問して、情報収集を行った。その後、母親・関係機関で支援会議を行い、情報の共有及び支援目標の抽出、支援方法を決定した。支援目標は、母親の要望も考慮し、身辺自立・行動問題・表出性コミュニケーションに関する目標を抽出した。3ヶ月後に再度関係者会議を行い、支援目標の結果及び今後の支援について協議した。支援目標は家庭・学校・各事業所で実施されており、行動問題は軽減していた。その後、母親へのインタビュー及び関係機関へのアンケート調査を行った。その結果、サポートファイル「りあん」を使用することや関係者会議を実施し、支援目標や手立ての統一化を図ることの有効性を全員が認識していた。

今年度は初年度の取り組みであったため、来年度以降も同様の取り組みを実施し、事例を増やす中で、普遍化できる取り組みなのか考察していきたい。

II. 事業目的

行動障害のある発達障害児者を持つ家族に対して、家族を含む関係者会議やチームによる家庭へのコンサルテーションを行うことにより、家族が本人に対する関わり方を学び、本人が家庭の中で安定して生活することを目的とする。

III. 事業の実施内容

家庭支援に関する事業を実施するに当たっては、各方面からの意見を参考にして計画を立てることが望ましいと考え、ワーキンググループを立ち上げ、会議を4回行った。その結果、家庭支援は、①家族や相談支援事業所、学校、放課後デイサービス事業所等本人を取り巻く関係者で支援会議を行い、特性等の共通理解及び統一した支援を行う、②支援計画は、(1)「一日を過ごしやすくするための取り組み」という視点、(2)本人の気持ちに寄り添う支援、(3)(1)、(2)のためには、環境の構造化等による受容性コミュニケーションと意思決定等表現性コミュニケーションの取り組み、行動観察による機能分析の取り組みが必要である、という意見であった。

また、家庭支援を行うためには、家庭で実施可能な取り組みや親の気持ちを理解しておくことが必要であるという意見があがったため、行動問題があるものの、比較的安定している自閉症児者をもつ6名の母親へインタビューを行った。その結果、知的障害があり行動問題がある自閉症児者への母親の関わりは、《子どもに必要な関わり方が分かっていく》プロセスであることが分かった。《子どもに必要な関わり方が分かっていく》とは、【子どもに合った対応を追求する】、【子どもが安心する対応を理解していく】、【子どもに合った対応を認識する】を、何度も何度も繰り返すサイクルであった。また、インタビュー調査結果から得られた内容を、1. 家族への支援、2. 親が子どもに必要な関わり、3. 地域支援体制整備に分類して表1に示す。

表1 6名の母親へのインタビュー調査結果

カテゴリー	内容
家族への支援	<ul style="list-style-type: none"> ①子どもが乳幼児期から、家族が継続的に学ぶ場（知識・実践） ②家庭へのコンサルテーションを行う専門家（担当者、相談機関、民間専門家） ③母親が気兼ねなく参加できる居場所（保護者同士の集まり、親の会など） ④家族の大変さに寄り添い、労うことができる専門家（担当者、相談機関、民間専門家など）
家族が子どもに必要な関わり	<ul style="list-style-type: none"> ①視覚的に伝える（スケジュール、説明など） ②子どもからの表現性コミュニケーションの手立て ③子どもの意思を尊重する ④好きな活動を保障する ⑤こだわりにつき合う ⑥苦手さを把握し、事前準備を入念にし、成功体験を積み上げる
地域支援体制	<ul style="list-style-type: none"> ①専門家の育成 ②知的障害があり、行動障害がある ASD 児者をもつ家族が学ぶ場 ③家族同士で相談できる場

今年度は、睡眠の乱れ・自傷・他害行動・かんしゃく等がある、特別支援学校1年生7歳の男児を持つ家庭を対象として、事業を実施することとした。なお、対象児の家庭には、知的障害がある自閉症児の4歳になる弟がいる。

平成30年8月23日（木）に母親及び本人が通っていた児童発達支援センター職員と面談し、事業説明を行った。母親から事業協力の承諾を得たため、9月20日に家庭訪問を行い、家庭での状態について情報収集を行った。また、関係機関（特別支援学校、放課後デイサービス事業所3カ所、相談支援事業所）に9月に訪問し、事業説明及び本人の状態の聞き取りを行った。情報収集のツールは、北九州市と北九州市発達障害者支援センター、親の会3つの団体で作成した、サポートファイル「りあん」を使用した。また、本人の状態確認のために、10月に特別支援学校を訪問した。情報収集後、平成30年11月下旬に、母親と関係機関、つばさで支援会議を行った。情報の共有化と支援目標の抽出及び具体的支援方法について協議した（資料2-2）。支援目標については、対象児の年齢や状況、母親の希望、関係機関での状態等を考慮し、身辺自立（排泄、食事）、コミュニケーション（受容性：「だめ」の伝え方、表現性：写真カードを使って、大人に伝える）、行動問題（胸を触ることへの対応）を具体的課題とした。翌年2

月 26 日に再度関係者会議を行い、支援経過の確認を行った。

効果検証に関しては、母親へのインタビュー及び関係機関へのアンケート調査（資料 2-3）を行った。

IV. 分析、考察

1. 調査結果

① 母親へのインタビュー調査結果

2 回目の関係者会議終了後、母親へインタビュー調査を行った。その結果を、表 2 に示す。

表 2 母親へのインタビュー調査結果

項目	質問内容	結果
1. 支援目標について	①目標について、家で実行できましたか。	実行できた
	②支援目標を家で実行することは、負担でしたか。	負担ではない
	③②で「負担」の場合は、具体的に教えてください。	
	④より負担なく実行するには、どのようにすればよいと思いますか。	
2. 「サポートファイル」について	①サポートファイル「りあん」を活用することは、有効でしたか。	有効であった
	②「有効である」の場合、具体的に教えてください。	りあんに記入することによって、様々な場面での子どもの事が良く理解できた
	③「有効ではない」場合、具体的に教えてください。	
	④サポートファイル「りあん」に変わるものとして、どのようなツールが適当だと思いますか。	
3. 関係者会議について	①関係者会議で協議することは、有効でしたか。	有効であった
	②「有効である」の場合、具体的に教えてください。	
	③「有効ではない」場合、具体的に教えてください。	

4. その他、	この取り組みが、今後どのように発展していくのか知りたい
------------	-----------------------------

② 関係機関へのアンケート調査結果

2 回目の関係者会議終了後、特別支援学校、放課後デイサービス事業所 3 ヶ所、相談支援事業所へアンケート調査を行った。その結果を、表 3 に示す。

表 3 関係機関へのアンケート調査結果（アンケート数 7 人）

項目	質問内容	結果
1. 支援目標について	①目標について、学校（事業所）で実行できましたか。	実行できた（6） 直接支援ではない（1）
	②支援目標を学校（事業所）で実行することは、負担でしたか。	負担ではなかった（5） 直接支援ではないので分からない（2）
	③②で「負担」の場合は、具体的に教えてください。	
	④より負担なく実行するには、どのようにすればよいと思いますか。	・定期的な会議を開催し、共通認識を深める。 ・今年度は実態把握の年だったと思う。この実態を基に支援目標が実行しやすいように「つばさ」からの手立て等のアドバイスをお願いしたい。
2. サポートファイル「りあん」について	①サポートファイル「りあん」を活用することは、有効でしたか。	有効であった（6） 無回答（1）
	②「有効である」の場合、具体的に教えてください。	・複数の機関で共通目標に対して、一貫したサポートを提供できるため、子どもにとって混乱を招くリスクが低く、成果が期待できる。 ・家、学校、事業所の様子が分かりやすく、統一しやすかった。（3） ・自宅・学校・事業所での様子が分かり、好きなことや嫌なことを参考にして支援ができた。 ・支援方法をできる限り共有することで、本人が戸惑わなくても済

		む。
	③「有効ではない」場合、具体的に教えてください。	
	④サポートファイル「りあん」に変わるものとして、どのようなツールが適当だと思いますか。	
3. 関係者会議について	①関係者会議で協議することは、有効でしたか。	有効（7）
	②「有効である」の場合、具体的に教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族を支え、複数の機関間での情報共有・支援の一貫性、成果に対する評価・修正を行う上で、非常に有効であった。（4） ・子どもがどのように過ごしているのか、問題点・今後の支援をどうするのが明確でよかった。 ・支援目標を達成するために具体的な手立てが考えられ、参考になる事柄があった。
	③「有効ではない」場合、具体的に教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> ・会議時間が長い。事前に意見を聞いて、紙面化しておく。会議では、その内容の確認のみをする。 とすればスムーズではないか。
4. その他、	<ul style="list-style-type: none"> ・会議前に各機関での支援状況を確認しておき、集約したものを予め配布する。会議では、状況報告を簡易に済ませ、共通目標に対して機関の特色に応じたアプローチ方法を皆で検討することで、更に成果が期待できると思う。 ・情報共有で会議ができたことは、とても助かった。 ・支援目標を意識していなかったという反省があるため、中間で会議が必要かもしれない。 	

2. 考察

今年度は、睡眠の乱れ・自傷・他害行動・かんしゃく等がある、特別支援学校小学部1年生の自閉症児を持つ家庭を対象として、事業を実施した。ワーキンググループや6名の母親へのインタビュー調査結果及び企画・推進委員会の意見を基に、サポートファイル「りあん」を活用して、身辺自立・行動問題・表出性コミュニケーションに関する目標を抽出した。3ヶ月後の関係者会議では、支援目標は家庭・学校・各事業所で実施されており、行動問題は軽減していることを確認した。

母親へのインタビューや関係機関へのアンケート調査結果からは、「1. 支援目標について」は、母親と直接支援を行っているスタッフは、全員実施でき

ており、負担ではなかったと回答している。また、「より負担なく実行するには」、定期的な会議を開催し、共通認識を深めることや、つばさからのアドバイスを求める意見があった。

「2. サポートファイルりあんについて」は、母親と直接支援を行っているスタッフは、全員「有効であった」と回答している。具体的には、「家・学校・事業所の様子が分かりやすく、統一しやすかった」という意見が複数みられた。また、「複数の機関で共通目標に対して一貫したサポートを提供できるため、子どもが混乱を招くリスクが低く、成果が期待できる」と、家庭や関係機関で、支援目標について統一した方法を実施することの重要性を指摘している意見もあった。

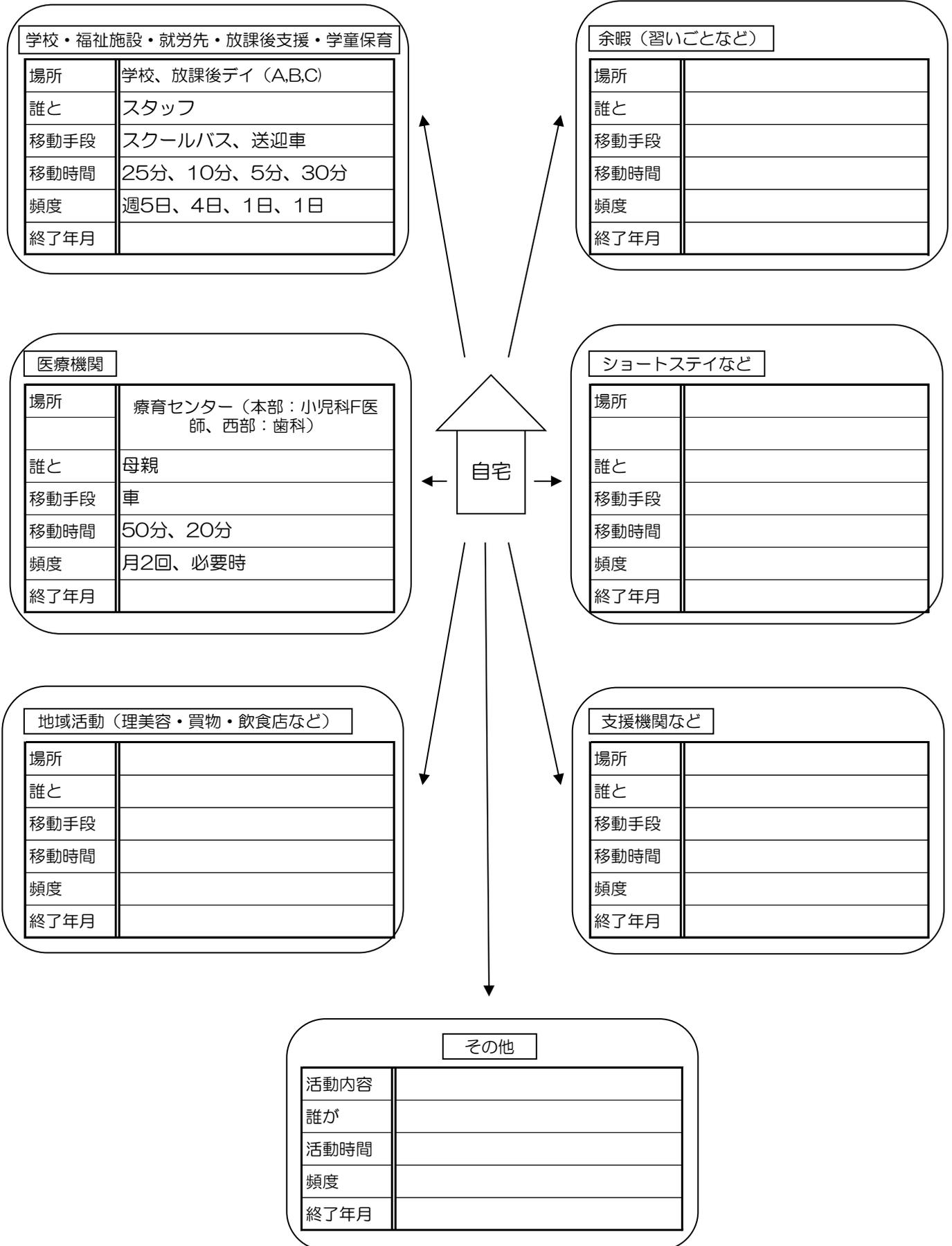
「3. 関係者会議について」は、全員が「有効」と回答している。具体的には、「家族を支え、複数の機関間での情報共有・支援の一貫性、成果に対する評価・修正を行う上で、非常に有効であった」という意見が複数あった。また、普段はなかなか知ることができない子どもの様子を知ることや、支援目標の統一、具体的な手立てが明確だったことについて、有効性を感じているという意見があった。

その反面、会議時間の設定や事前準備に対する意見もあったため、来年度以降は必要な改善は図りたい。

今年度は初年度の取り組みであったため、来年度以降も同様の取り組みを実施し、事例を増やす中で、普遍化できる取り組みなのか考察していきたい。

●現在の生活地図

- ※ 普段の生活の範囲などを記載します。
- ※ 支援者が自宅へ訪問の場合は、その他に記入します。



●私の姿

※ 本人が望んでいることを記入します。



私が安心できる場所や時間は

- 1 事務所 (A)、ミニカーを並べる場所
- 2 ハンモック、2階 (家)
- 3 学習エリア (学) ビデオを見る時



私が嫌な場所や時間は

- 1 集団の活動 (B)
- 2 椅子に座ってする活動 (学、C)
- 3



私が好きな事は

- 1 ミュージックケア、壁と棚の間に物を入れる
 - 2 ミニカー並べ、端から端を走る (家)
 - 3 オンブ (家)、プレイルーム (学)、走る・プール遊び (C)
- タコ・イカ・魚等三つのおもちゃを持つ



私が苦手な事は

- 1 制止されること (家)
- 2 「駄目」と言われること (家)
- 3 本人が並べた物を何も言わずに片づけること



私がやりたいことや希望は

- 1
- 2
- 3



過ごしやすいようになるために

- 1 禁止用語を使わない (家)
 - 2 小さな声で伝える、叱らない、ほめる (学)
 - 3 一人で遊ぶ時間、慣れたスタッフと遊ぶ (A)
- 無理強いしない (B、C)

信頼できる人に伝えたい事は

- 1 禁止用語ではなく、肯定的に伝えてほしい。(行きたがらなくなります)
- 2
- 3



いいとこみっけ

性格・〇〇が得意・〇〇がすき・いいとこたくさん書いてみよう！



自分から要求
する

すなお

笑顔



トイレに誘う
とスムーズに
行くようになった

スタッフが意図
することができ
やすくなった

外に飛び出
すのが減っ
た

優しい

手を繋ぐと沢
山走る

どのスタッフで
も応じてくれる

II. 現在の状態 ①

●所属機関

所属機関名（学年）：	所属機関先： 〒
------------	----------

●健康

●身長（ 120 ） cm ・ 体重（ 27 ） kg ・ 平熱（ ）度
●現在の健康状態 < 心臓疾患・てんかん発作・ぜんそく発作・アトピー・その他の疾患（ ） > 具体的な症状と対処方法：
●アレルギーの有無 < 食物・動物・植物・ハウスダスト・その他（ ） > 具体的な症状と対処方法：
●服薬の有無 < <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 > ※医療機関に関する情報は、P28 へ。 管理・服薬の仕方： 母親が飲ませる
●「痛み」「不快」（頭痛・歯痛・吐き気・熱・鼻血などの症状）の訴え方 観察のポイントと対処方法：
●治療に関しての特記（治療に関する約束や手順など）
●睡眠について 週1～2回は乱れる。夜中に起きて、朝方寝る。弟が起きるため、目が覚めることもある。 →日中、落ち着かない。30分から1時間昼寝することもある。

●食事

●食欲や偏食（ <input checked="" type="radio"/> あり ・ なし ） 白米を食べない
●好きな食べ物・飲み物（成人期の場合は、嗜好品も含む） （学）食パン、マーガリン、汁（コンソメ・味噌汁）、煮魚、肉、ししゃも、レバー （A）カップヌードル、長崎ちゃんぽん、揚げ物、グミ、チップスター （C）幕の内弁当、ポテトチップス、リンゴジュース、水 （家）唐揚げ、揚げ物、焼き肉
●苦手な食べ物・飲み物 野菜、牛乳

（ ）さんのファイル 記入者氏名（ ） 続柄（ ） 記入年月日（ ）年（ ）月（ ）日

●日常生活能力

項 目	一人で できる	部分的に できる	できな い	備考（必要な援助等）
例) 服を着る		○		例) ボタン付きの服は使えない
●食事				
1 スプーンやフォークで食べる		○		スプーン・フォーク練習中（上手握り）、（家）手づかみ
2 箸で食べる				
●排泄 ↓ 大人の手を持つ、自分で行く				
1 トイレで排尿する		○		定時（1時間）誘導、サインがある（モソモソする）
2 トイレで排便する			○	オムツに中である、パンツに失敗する（学）軟便
3 排尿・便の後始末を適切にする			○	
4 生理の後始末をする				
●セルフケア				
1 顔を洗う			○	母親がタオルで拭く
2 歯磨きをする		○		歯ブラシを噛む
3 髪を整える			○	
4 ひげを剃る				
5 爪を切る			○	
6 入浴し、髪や体を洗う			○	
7 体を拭いたり、髪を乾かす			○	
8 不調を訴える			○	
9 汚れた衣服を自発的に着替える	○			
10 薬の管理をする			○	
●着脱				
1 服を脱ぐ	○			ズボン・パンツは自立、シャツ類は持たせると脱ぐ（学）
2 服を着る		○		持たせて、頭まで持っていくと自分で着る（学）
3 季節やTPOに合わせた服を選ぶ			○	
4 靴下や靴を履く		○		
●家事				
1 洗濯をする				
2 掃除をする				
3 食器を洗う				
4 買物をする				
5 簡単な調理をする				
●その他				
1 ひとりで留守番をする				
2 戸締りをする				
3 金銭管理をする				
4 公共交通機関を利用する				
5 電話をかける				
6 時計を見て時間がわかる				
7 カレンダーを見て月日や曜日がわかる				
8 スポーツや旅行など趣味の活動を行う				
9 火や刃物などの危険物を認知する				
10 自由な時間を一人で過ごす				

（ ）さんのファイル 記入者氏名（ ）続柄（ ） 記入年月日（ 年 月 日）

●人との関わり

●家族との関わり：
父親とは毎日遊ぶ。母親・弟と一緒に寝る。
●友人（同世代の人）との関わり：
特定の生徒の顔をのぞく、頬を触る（学）、年上の小学生が好き（本人によく関わる子）（ペ）、分からは関わって行かない（こ、あ）
●周りの大人（先生や支援者など）との関わり：
慣れた大人には自分から関わる、どのスタッフとも遊ぶ（あ）
好きなスタッフ（本人のことを理解している人）がはっきりしている、関わるスタッフの幅が広がった
●知らない人との関わり：
初めての人には、自分から関わらない →顔を覗き込むようになった。
若い女性スタッフが好き。（胸が好き）（学）
●社会的常識・ルールの理解：

●コミュニケーション

◇主なコミュニケーションの方法（○をつける）	
実物 絵 写真 文字 言葉 ジェスチャー その他（ ）	
●本人から相手に伝えるとき	●相手から本人へ伝えるとき
《要求》	《要求》
手を引っ張っていく、クレーン	具体物、ジェスチャー、ことばかけ
「ちょうだい」のジェスチャー	写真カード（学、B）
写真カード（ビデオ・消しゴム）（学）	
《注意喚起》	《注意喚起（気づいてほしいとき）》
（家）手を引っ張る	名前を呼ぶ
《拒否の仕方》	《してはいけないことの伝え方》
首を振る、手を振る、座り込む、動かない	（家）「駄目だよ」と言い、場所を変える
寝転んで泣く、叫ぶ、自分の頭を叩く	（学）ことばとジェスチャー（指で×マーク）
	（A）ことばとジェスチャー（腕で×マーク）
	（C）そっとしておく（TPOによる）
	（B）ことばと×カード
《その他（特徴、支援のてがかり）》	《その他（特徴、支援のてがかり）》

（ ）さんのファイル 記入者氏名（ ） 続柄（ ） 記入年月日（ 年 月 日）

●行動特性

●得意なこと・興味・関心のあること、物：
壁と家具の間に物を入れる、走る
消しゴム（沢山）を触る、お母さんと一緒にビデオ（学）、本人用のおもちゃ（ミニカー、動物、小ボール）
●苦手なこと、物：
座ってする作業・課題
●こだわりのある物、行動：
「赤・青・黄」の教材の位置（学）
事務室のスタッフの座る位置（A） 母親と祖母をソファに座らせ、間に座る（家）
●常同行動（いつも決まってする行動、繰り返す行動）：
入室後は、すぐにミニカーをばらまき、並べる（A・B・C）
●不安・恐れるもの：
●予想外の事への反応、急な変化への反応：
●多動・不注意・衝動性《忘れ物・整理整頓などを含む》（ <input checked="" type="radio"/> ）有 ・ 無 ・ わからない ）
●寡動《行動にとりかかれぬ。その場から動かない》（ <input checked="" type="radio"/> ）有 ・ 無 ・ わからない ）
●緘黙《人や場面によっては全くしゃべらない》（ <input checked="" type="radio"/> ）有 ・ 無 ・ わからない ）
●自傷（ <input checked="" type="radio"/> ）有 ・ 無 ・ わからない ）
（家）制止される・要求が通らなると、自分の顔・胸を叩く （学）制止されると、頭を叩く
（C）嫌なことがあると、頭を叩く （B）オヤツが待てずにイライラすると、頭を叩く・腕を噛む
●他害（ <input checked="" type="radio"/> ）有 ・ 無 ・ わからない ）
要求が通らない・嫌なことをされると、叩く・頭突き（床や人、隣にいる人）をする
●かんしゃく（ <input checked="" type="radio"/> ）有 ・ 無 ・ わからない ）
（学・B）嫌な時は、寝転んでワーワー泣く。
（A）事務室に入れない時は、「ギャー」と言い、地団駄を踏む。
●気になる行動（有 ・ 無 ・ わからない ）
●その他（特徴、支援のてがかり）

（ ）さんのファイル 記入者氏名（ ） 続柄（ ） 記入年月日（ 年 月 日）

●感覚

◇感覚の問題や配慮すべき点（各項目に○をつける）
●視覚（ある ・ 特になし ・ わからない）
《例：光や太陽に反応する、換気扇など回転するものを見る、鏡を見入る、など》
●聴覚（ある ・ 特になし ・ わからない）
《例：大声や泣き声を嫌う（怖がる）、嫌いな音に対して耳をふさぐ、雨の音など小さな音を騒音に感じる、など》
●触覚（ <u>ある</u> ・ 特になし ・ わからない）
《例：人に触られることを嫌う、水圧を楽しむ、爪切りをすると痛がる、など》
（学）凸凹した消しゴムを触る、頬・胸を触る （家）雑誌の紙をちぎって、ばらまく
（A）凸凹した物（ミニカー等）を、左手に持つことが好き
（C）ミニカーのタイヤを腕に転がす （B）凸凹した物を噛む・触る
●味覚（ある ・ 特になし ・ わからない）
《例：何でも口に入れたがる、異食、偏食、など》
●臭覚（ある ・ 特になし ・ わからない）
《例：物の臭いを嗅ぐ》
●温度覚（ <u>ある</u> ・ 特になし ・ わからない）
《例：暑さや寒さに敏感・鈍感》
暑さは苦手
●痛覚（ <u>ある</u> ・ 特になし ・ わからない）
《例：痛みに敏感・鈍感》
痛みに多少鈍感
●その他
《例：ぐるぐる回ることが好き、ギュウッと圧迫される感覚を好む、狭い場所が落ち着く、特定の音が苦手、など》
（学）水を含んでプーと出す。手洗い後、水を床に落として遊ぶ。
（C）「高い、高い」、ハンモック、水遊び。「圧覚」が好き。
（B）プール遊び（ホースで水をかけると喜ぶ）

（ ）さんのファイル 記入者氏名（ 続柄 ） 記入年月日（ 年 月 日）

_____さんに関わっている人たち一覧

●療育(心理・言語・運動などの外来相談、民間の療育機関など)

所属名・利用期間	担 当	連 絡 先	備 考
～		TEL ()	
～		TEL ()	
～		TEL ()	
～		TEL ()	
～		TEL ()	
～		TEL ()	
～		TEL ()	
～		TEL ()	
～		TEL ()	

●福祉サービス (日中一時支援事業、ホームヘルプ事業、ショートステイなど)

所属名・利用期間	担 当	連 絡 先	備 考
放課後デイサービス事業所 A	E		
平成30年4月～	M	TEL ()	
放課後デイサービス事業所 B	H		
平成30年5月～		TEL ()	
放課後デイサービス事業所C	Z		
平成28年9月～		TEL ()	
D相談支援事業所	M		
～		TEL ()	
～		TEL ()	
～		TEL ()	
～		TEL ()	

()さんのファイル 記入者氏名() 続柄() 記入年月日(年 月 日)

IV. その他

●医療情報

例) ・病歴について

・服薬について(薬名・服薬法・効果・副作用)

平成27年～

リスパダール(朝・夕)、ロゼレム(就床前)

●支援経過 (H30年11月22日～ H 31年2月26日)

課題	具体的支援	家	学校	放課後デイA	放課後デイB	放課後デイC
① トイレトレーニング	定時誘導、サインにて誘導	サインは出ていない。40～50分間隔で誘導。トイレで数回、大便で成功した。つなぎパジャマなので、自発的にトイレに行くことはない。	1時間前後で誘導。1時間半もつこともある。おもしろい(週に2回程度)サインは少しある。ひとりでトイレに行こうとする時は、ことばとジェスチャーで教える。	学校から事業所に到着時、オムツに排尿していることが半数。排尿していない時は、トイレ誘導。1時間20分もつこともある。1時間位で、スタッフをクレーンでトイレに行く。	立っている時にトイレ方向に向けると、トイレに行く(45分)。「トイレ、行くよ」の声かけで行くこともある。	登所時に失敗していることがある。1～1時間半で誘導。切り替えが良くなっている。遊んでいる時に誘導しても、スムーズに行くようになった。
② スプーン、フォークを使って食べる	スプーンに食べ物を入れておくと、自分で口に運ぶ。フォークに食べ物を通すと、自分で口に運ぶ。	変化なし。熱心しておく。スプーン・フォークで食べる。(ぬるいと手で食べる)	好きな物は、自分でフォークで刺して食べる。小さな一口にしておく。食べることがある。ごはんとルーを混ぜたカレーとハヤシライスを食べた。	レンジで温めた唐揚げやカップラーメン(他の物を食べない時のみ)は熱いとフォークで食べる。(無理強いや声かけはしない)カップラーメンは指で熱さを確認する。	機会がほとんどなかった。特に変化なし。	ホットモットのお弁当(カレー、自身のフライ等)を食べる。カレーはご飯とルーは別々に食べる。一口大にハサミで切る。スプーン・フォークに食べ物を入れて渡すと食べる。
③ 駄目を伝える時は、指で×マークで伝える	ことばは使わずに、指で×マークを作って伝える ⇒怒り役と優しい役が必要。「駄目」とことばで伝えても大丈夫になった。「〇〇ちゃん」と、少し強めに言うことで辞める。	自傷・かんしゃくが、ほぼなくなった。(12月15日～、投薬中止の影響が強いと思う)	制限された時や辞めたくない時に、教師への他書(5～6回叩き、頭突きをする)がみられる。(今後の課題)	怒って叩くのは、ほぼなくなった。テンションが高い時に、頭突き(上腕部分)をすることがある。	自傷・他書は、ほとんどない。通いすぎりの利用児に触れることがある。テンションが高い時に、頭突きがある。	制限が少ないので、自傷・他書はほぼない。12月15日前後で、出来ることが増えた(片付け等)。
④ 胸を触らせないようにする	胸を触ってきた時は、本人の手を持って、他のところに持っていく。本人の気持ちを、他にそらす。大人が本人の身体を触ってあげる。等	変化なし。12月15日以降は、「やめて」と手を外すようにしても、機嫌が悪くなることはなくなった。	変化なし。暇な時は、飽きている時に多い。	スタッフによっては、できない人がいるので、よけるようにしている。連絡帳書きをしている時に多い。	回数は減っている。胸に手がきた時に、本人の気持ちを紛らすように関わるようにしている。	女性にスタッフには触る。その時は、「駄目よ」と伝える。「おっぱ」と発語あり。他のことばを考え中。
⑤ 本人から発信するコミュニケーション手段を増やす	好きな活動や食べ物等の写真カード等を使って、本人から大人に要求を伝える。	食べたい時は、本人からの要求がある。(クレーン・靴を履く・母親にバックを持たせる等)	休憩時間に遊びカードを引き出しに入れておくと、本人から教師に持って来る。	お菓子の要求が多いため、隠している。	本人からの発信はない。クレーンで要求する。必要な時は、スタッフが選択肢(実物)を提示する。	視線が合う・座れるようになる等が整ってから、コミュニケーション手段を考えたい。

平成 30 年度北九州市発達障害者支援モデル事業 行動障害家庭支援
インタビューガイド

1. 支援目標について

- ①目標について、家（学校・事業所）で実行できましたか。
- ②支援目標を家（学校・事業所）で実行することは、負担でしたか。
- ③②で「負担」の場合は、具体的に教えてください。
- ④より負担なく実行するには、どのようにすればよいと思いますか。

2. サポートファイル「りあん」について

- ①サポートファイル「りあん」を活用することは、有効でしたか。
- ②「有効である」の場合、具体的に教えてください。
- ③「有効ではない」場合、具体的に教えてください。
- ④サポートファイル「りあん」に変わるものとして、どのようなツールが適当だと思いますか。

3. 関係者会議について

- ①関係者会議で協議することは、有効でしたか。
- ②「有効である」の場合、具体的に教えてください。
- ③「有効ではない」場合、具体的に教えてください。

4. その他、ご意見をご自由に教えてください。

知的障害があり、行動問題がある自閉症スペクトラム児者を持つ家族への支援
—母親へのインタビューを通して—

I. はじめに

自閉症スペクトラム (autism spectrum disorder、以下ASDと記す) とは、コミュニケーションや言語に関する症状があり、常同行動を示すといった様々な状態を連続体として包含する診断名である。ASD児者の中には、家庭や学校、施設、または地域社会において、様々な行動問題を示す人が少なくない (村本・園山2009) といわれている。他傷や自傷、衝動・多動性、強迫的行動、かんしゃく、感覚過敏等といった症状がみられ、これらは、ASD児者と暮らす家族の生活に深刻な混乱をもたらす (柳澤2012)。また、家庭場面の行動問題は、養育や家庭生活および地域生活の困難を招き、ひいては本人を、より制限のある環境へと隔離する主要な原因であり続けている。そのため、行動問題があるASD児者本人と家族に対する支援は、緊急な課題である (藤原・平澤2001) ことが指摘されている。さらに、ASD児者が示す行動への理解や対応の難しさは、家族全体にわたって共通した課題であり、家族の心理的な負担と強い関連性があることがうかがえる。このため、ASD児者の家族に対しては、ASD児者の行動や特性とそれらへの対応方法に関する適切な情報、また、それらについて学ぶ機会を提供することが必要である (柳澤2012)。厚生労働省においても平成25年度より、強度行動障害を有する者に対する支援を適切に行う者を養成する「強度行動障害支援養成研修 (基礎研修)」を創設している。

知的障害があり、行動問題があるASD児者への支援に関する先行研究の多くは、学校や大学等の専門機関と家族との協働による取り組みや行動分析の手法を用いた研究であり、母親の子育てに関する研究は、ほとんど見当たらない。そこで、今回は、比較的状態が安定している、知的障害があり行動問題があるASD児者の母親へのインタビューを通して、母親の子どもへの関わり方の変容プロセスを明らかにすることを目的とする。行動問題があるものの比較的状態が安定しているという、成功事例の母親の子育てのプロセスを学ぶことは、今後の家族支援を考えるうえで多くの示唆を与えてくれるものと考えた。また、比較的安定とは、行動問題が全くないわけではなく、そのために家族に多少影響があるものの、家族の生活に非常に支障をきたしているわけではないことを意味する。

II. 調査方法

1. 調査対象

分析対象者は、2017年12月段階で、比較的状態が安定している、知的障害があり行動問題があるASD児者をもつ母親 (6名) を対象とし、インタビューを用いる半構造化面接を行った。インタビューの期間は、2017年12月から2018年2月であり、時間は1人1時間から4時間であった。調査協力者の基本属性については、女性6名で、インタビュー時の年齢は、40代2名、50代3名、60代1名であった。また、子どもの年齢は、16

歳から 36 歳であった。

2. 倫理的配慮

調査協力者には、研究目的・個人情報保護・データの取り扱い・同意取り消しの権利について口頭および文書で説明を行い、協力への同意を文書で得た。また、協力者の了解を得て、インタビュー内容は IC レコーダーで録音を行った。分析および調査結果の公表段階において、個人が特定されないように配慮した。

Ⅲ. 結果

生成した概念は『 』、サブカテゴリーは〔 〕、カテゴリーは【 】, コアカテゴリーは《 》、語りの引用データは「 」で示す。はじめに分析結果全体を、分析結果図（図 1）とストーリーラインを用いて示す。

知的障害があり行動問題がある ASD 児者への母親の関わり方プロセスは、《子どもに必要な関わり方が分かっていく》プロセスである。母親は子どもが小さな頃から、【無我夢中で関わ】ってきた。母親はずっと、子どもの『行動問題に当惑し』ており、〔専門的意見を欲〕し、〔特性に合った方法を見出そうと（する）〕しながら、【子どもに合った対応を追求する】。また、〔子どもが安定する手立てを講じ（る）〕、〔成功のための用意周到〕を行うことによって、【子どもが安心する対応を理解していく】。この、【子どもに合った対応を追求する】と【子どもが安心する対応を理解していく】を何度も繰り返すことによって、【子どもに合った対応を認識する】。その一方で、子どもの『行動問題に当惑する』ことは全て無くなることはなく、【所属機関に理解を求め（る）】、【状態改善への渴求】をする。しかし、すぐに改善することはなく、【子どもに合った対応を追求する】、【子どもが安心する対応を理解していく】、【子どもに合った対応を認識する】という《子どもに必要な関わりが分かっていく》を何度も何度も繰り返すことによって、【生活しやすさを培う】に至る。また、これらは、【拠り所がある】に下支えされていた。

表 1 は、概念一覧表である。

表1 概念一覧

No	概念名	定義
1	密着して過ごす	子どもの行動が危険であったり、子どもが母親と離れることを嫌がるため、子どもと密着して過ごすこと
2	療育機関を利用する	自閉症や発達障害等の専門の療育機関を利用すること
3	行動問題に当惑する	子どもの行動問題が激しく、どのように対応すればよいのか分からず途方に暮れること
4	個別療育への期待	個別療育を行う専門機関に通うことで、子どもが成長することを期待すること
5	担当者のアドバイスを求める	子どもの行動に悩んでいる時、園や学校、専門機関の担当者に相談し、アドバイスを求めること
6	家庭訪問によるアドバイスを望む	専門家に家庭訪問してもらい、家庭での本人の様子や取り組みについてアドバイスをもらうことを望むこと
7	知識の習得	特性理解や対具体的な応方法等を学ぶために、母親が学習会に参加すること
8	視覚的に伝える	母親が学習したり情報収集した、子どもに有効と思われる視覚的な支援を用いて、子どもに伝えること
9	表出する手立てを講ずる	子どもが自分の思いを表出する手立てを講ずること
10	有効性を実感する	家庭や所属機関で子どもに適した関わりを行うことで、子どもの様子が良くなり、効果を実感すること
11	関わり方の意味を理解する	母親自身が実践を通して、学習したことや支援者が行う子どもへの必要な関わり方の意味を理解すること
12	意思を尊重する	子どもの意思は何なのか、選択肢を用意したり、写真や絵、ことば等で確認すること
13	好きな活動を保する	子どもが好きな活動を行うことができるように保すること
14	こだわりにつき合う	子どものこだわりが非常に強く、伝えても納得しないため、子どもがある程度あきらめるまでにつき合うこと
15	苦手さを把握する	学校や家庭、その他の場面で、子どもは何が苦手なのか把握しておくこと
16	事前準備を入念にする	今までの経験から、子どもが苦手と思われる事象に対して、失敗しないように事前準備を入念にしておくこと
17	所属機関のストレス発散に閉口する	所属機関でストレスがあると家で状態が悪くなるため、対応に非常に困ること
18	支援者に不満を持つ	表立って言わないが、子どもの支援者の言動に不満を持つこと
19	適切な対応を交渉する	子どもに対する有効と思われる対応を、所属機関に取り入れてもらいたいと交渉すること
20	状態悪化による危機感	子どもの状態が悪く改善の見通しが立たないため、この先どうなるのかと危機感を持つこと

21	支援者に助けを求める	子どもの行動問題への対応が非常に難しいため、支援者に助けを求めること
22	薬物による調整	子どもの状態が悪い時に医療機関に相談し、薬物による調整を行うようにすること
23	心丈夫になる担当者がいる	子どもや母親の大変さや悩み等を理解し、寄り添ってくれる担当者がいることで心丈夫になること
24	気兼ねない居場所がある	親が気兼ねすることなく、話せる居場所があること
25	生活しやすさを取り入れる	家庭で生活していく上で母親があまり困らないように、少し大まかな関わりを行うこと
26	支援者の幅を広げる	子どもが様々な人と行動できるように、母親以外の支援者と一緒に活動することを継続すること

参考文献

- 1) 安達潤・古川宇一 (2003) : 自閉症児の家庭生活トラブルを軽減するための支援—養育者の問題対処能力を上げる働きかけを通じて—, 北海道教育大学教育実践総合センター紀要, (4)-(6), 33-41.
- 2) 藤原義博・平澤紀子 (2001) : 問題行動を示す発達障害児者への本人や家族を中心とした家族支援—包括的な行動的支援からの貢献と課題—, 上越教育大学研究紀要, 第21巻, 第1号, 153-162.
- 3) 河内なぎさ・河内哲也 (2015) : 家庭で過剰な要求を示す自閉症スペクトラム症児への PECS の活用—育児支援を必要とする母親への指導を通して—, 臨床発達心理実践研究, 第10巻, 52-58.
- 4) 木下康仁. (2007) 『ライブ講義 M-GTA—実践的質的研究法修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチのすべて』 弘文堂.
- 5) 前田久美子・佐々木銀河・朝岡寛史・野呂文行 (2017) : 行動問題を示す自閉症スペクトラム児の母親に対する行動記録を用いたコンサルテーション—効果的な記録様式と変容過程の分析—, 特殊教育学研究, 55 (2), 95-104.
- 6) 村本浄司・園山繁樹 (2009) : 発達障害児者の行動問題に対する代替行動の形成に関する文献的検討, 行動分析学研究, 23, 126-142.
- 7) 岡本邦弘 (2015) : 行動問題を示す発達障害児をもつ保護者と教師との効果的な連携方法の検討, 兵庫教育大学大学院連合学校教育科.
- 8) 岡村章司 (2016) : 高いストレスをもつ保護者による行動問題を示す自閉症児への家庭での介入を促す支援方略の検討—強みに基づくアプローチを通して—, 特殊教育学研究, 54 (4), 257-266.
- 9) 末永統・小笠原恵 (2012) : 発達障害児の行動問題と競合する適応行動に対する自己管理手続きの検討, 特殊教育学研究, 50 (3), 269-278.
- 10) 李木明德 (2003) : 自閉症の子ども行動障害と子育て—乳幼児期から児童期までの子育てに関する母親の語りから—, 広島文教女子大学紀要, 38, 129-141.

- 11) 鈴木浩太、小林朋佳、森山花鈴、加我牧子、平谷美智夫、渡部京太、山下裕史朗、林隆、稲垣真澄（2015）：自閉症スペクトラム児（者）をもつ母親の養育レジリエンスの構成要素に関する質的研究，脳と発達，47，283-288.
- 12) 竹井清香・五味洋一・野呂文行（2009）：機能的アセスメントに基づく自閉症スペクトラム幼児とその母親に対する家庭内支援—注目によって動機づけられた行動問題への効果—，障害科学研究，33，13-24.
- 13) 上野 茜・野呂文行（2011）：機能的アセスメントに基づく自閉性障害児に対するトークンシステムを用いた家庭内支援に関する検討，障害科学研究，35，197-208.
- 14) 柳澤亜希子（2012）：自閉症スペクトラム障害児・者の家族が抱える問題と支援の方向性，特殊教育学研究，50（4），403-411.

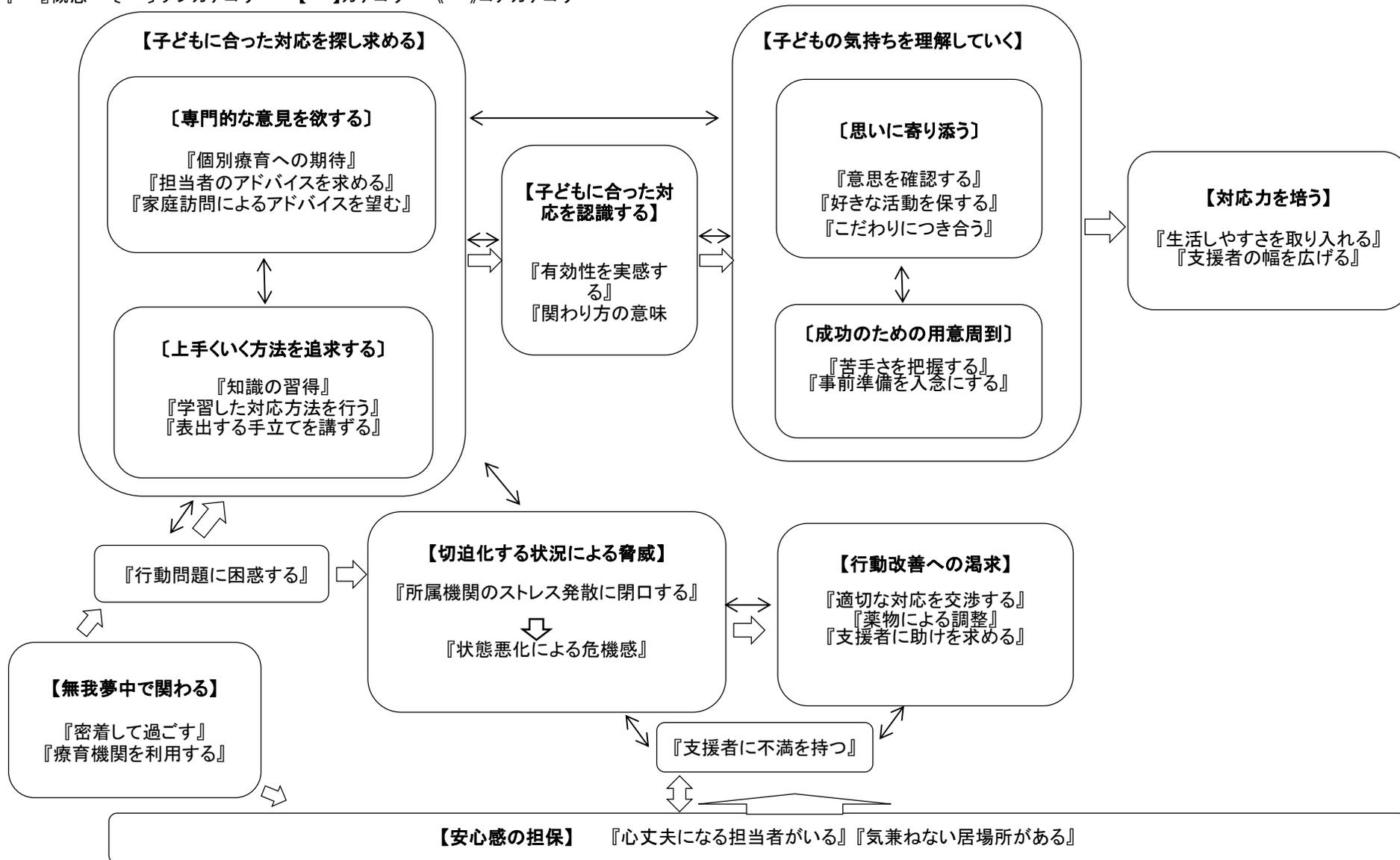
行動問題がある自閉症児者への母親の関わり方変容プロセス

H30.8.28

⇨ 変化の方向 ⇨ 影響の方向 ⇨ 拮抗する関係
 『』概念 []サブカテゴリー 【】カテゴリー 《》コアカテゴリー

始点(医療機関受診後) 終点(現在)

《子どもに沿った暮らしやすさへの転換》



行動問題がある自閉症児者への母親の関わり方変容プロセス

⇨ 変化の方向 → 影響の方向 始点(医療機関受診後) 終点(現在)
 『』概念 []サブカテゴリー 【】カテゴリー 《》コアカテゴリー

《子どもに必要な関わりが分かっていく》

